

～多様性を認めあい誰もが自分らしく生きることができるまち～

# 女性と文化芸術

市内で活躍する女性たち：「文化芸術」で“わたしらしく”生きる

文化芸術は、創造力と感性を育むとともに、人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会をつくる大きな意義を持つもので、「人類にとって必要不可欠」とであると、文化庁による「文化芸術推進基本計画」でも示されています。また、世界的にも、多様性や包摂性、持続可能性をキーワードとした新たな社会の実現のために、文化芸術が大きく貢献することが広く認識されています。

令和7年度は「女性と文化芸術」をテーマに掲げ、吉川市で文化芸術の分野で活躍される女性の中から5名にインタビューを実施しました。また、座談会を開催し、男女共同参画への理解を深める取り組みを行いました。それぞれの文化芸術の分野において、“わたしらしく”生きる皆さんをご紹介します。

## インタビューにご協力いただいた皆さん



花宵ガラス工房  
すどう たまみ  
須藤 珠美さん



吉川市文化連盟  
ひろせ まさこ  
廣瀬 正子さん



演劇を楽しむ会 れんげ草  
ただ みき  
多田 美紀さん



ワークショップ楽えん  
かこ  
kacoさん



えいこれん  
栄娘連  
なかもと みよび  
中元 雅さん

吉川市は、性別の枠を超え、多様性を認め合いながら  
「わたしらしく」人生を楽しんでいる皆さんを応援し、ジェンダー平等の実現に取り組んでいます。

## 世界におけるジェンダーギャップ指数

スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」は世界基準の男女格差を数値化した指標「ジェンダーギャップ指数」を毎年公表しています。これは教育・経済・健康・政治の4分野で構成され、0が完全不平等、1が完全平等を意味しており、指数が1に近づくほど男女平等で、男女の格差がない状態を表しています。

日本は

**118位 / 148カ国**

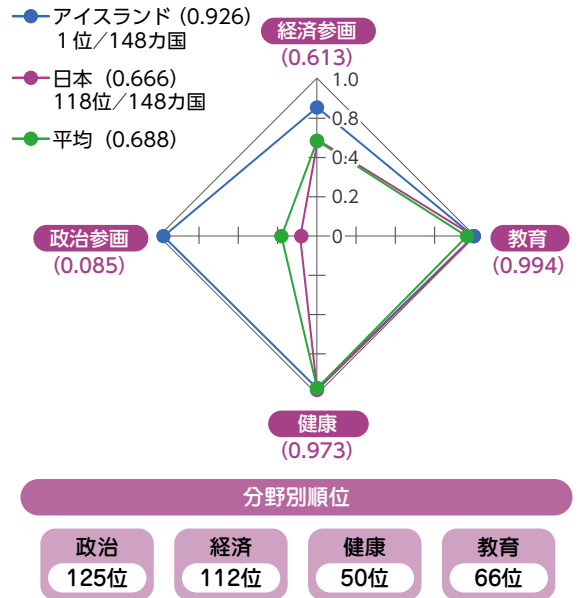
(前年同様)

順位	国名	指数
1	アイスランド	0.926
2	フィンランド	0.879
3	ノルウェー	0.863
...	...	...
74	ベトナム	0.713
...	...	...
101	韓国	0.687
...	...	...
103	中国	0.686
...	...	...
118	日本	0.666

2025年に発表された日本のジェンダーギャップ指数は、前年同様に118位で、依然として先進7か国中で最下位となっています。アジアの近隣諸国から見ても、ベトナム(74位)、韓国(101位)、中国(103位)を下回っています。

世界中がジェンダー格差の解消へ取り組みを進めている中、日本は教育分野・健康分野では世界トップクラスである一方で、政治分野・経済分野での順位が低く、女性の参画に課題があることが示されました。

## グローバル・ジェンダー・ギャップ指数 2025



## 吉川市の取り組み

市では、国が「男女共同参画社会基本法」を制定する以前の平成7年に、男女がともにいきいきと豊かに暮らせるまちづくりを目指す行動計画「よしかわパートナーシップアクション22」を策定しました。この計画を継承しながら、第4次吉川市男女共同参画基本計画（令和4年3月策定）まで改訂を重ね、現在に至っています。第4次計画では「多様性を認め合い誰もが自分らしく生きることができるまち」を基本理念として、ジェンダー平等の視点に立ち、男女共同参画社会の実現を目指した取り組みを進めています。



「女性に対する暴力をなくす運動」啓発  
パープル・ライトアップ  
開催日：令和7年11月12日から25日



「女性と文化芸術“わたらしさ”フォーラム」  
開催日：令和8年2月15日

## 吉川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

詳細についてはこちら(市HP)



市では、令和4年2月から「パートナーシップ宣誓制度」を導入しています。これは、婚姻制度とは異なり、宣誓によって法律上の権利や義務などの法的効力は生じませんが、性的指向や性自認に関わる性的少数者の困難や生きづらさが軽減されるとともに、パートナーシップの関係が社会的に理解、尊重されていくことを期待するものです。



令和6年4月からは生計を同じくする子を含めた「ファミリーシップ宣誓制度」も導入し、性的指向や性自認に関わる性的少数者やその家族の困難や生きづらさがより一層軽減されることを目指しています。

## 相談窓口 ひとりで悩んでいませんか？

家族のこと、仕事のこと、夫婦のこと、交際相手のこと、ご近所やママ友付き合いのこと、自分の生き方など…あなたの力になりたいと思っている人は必ずいます。ひとりで悩まずに相談してください。周りの人が悩んでいると感じたら、話を聞いてみてください。そして相談窓口があることも教えてあげてください。



### 女性総合相談(女性が抱える悩み全般) 予約制

TEL 048-982-9458(予約電話)

平日(祝日・年末年始を除く) 午前9時～午後5時  
原則 毎月第2・第4水曜日 午後1時/2時/3時  
相談時間各50分  
場所 市民交流センターおあしす1階ミーティングルーム

### 吉川市配偶者暴力相談支援センター(DV相談)

TEL 048-982-5968

平日(祝日・年末年始を除く) 午前9時～午後5時  
※月・水・金曜日は女性相談支援員(女性の専門相談員)が  
応じます。

### 男性のための電話相談 埼玉県

TEL 048-601-2175

毎月第1・第3日曜日(年末年始を除く)  
午前11時～午後3時 相談時間20分  
※DVのほか男性全般の相談(職場の人間関係、家族・夫婦、  
生き方など)に男性の臨床心理士が応じます。

# 音楽



ワークショップ楽えん

かこ  
kacoさん



ワークショップ楽えん  
Instagram



市内で活動しているアートと音楽のアーティストを集めて、コンサートやライブ、展示会などのイベントを開催しています。

アーティスト同士のつながりの輪として、「アーティストフェス」も年1回を目途に開催。違うジャンルの方同士がつながることで、違う形のものが生み出されるきっかけ作りをしています。

# ガラス工芸

ガラスの魅力は「自由自在に形を変え、自由であること」だと思います。溶けるガラスが発光している様が美しく、いつも「綺麗だな」と思いながら制作をしています。空や水、花などの自然をモチーフとすることが多いです。

吉川へ移住し、自分の工房を持ち、「築炉」をしました。工房の設備は、仲間から多くのことを学びながら、ほとんど自分で設計し、据え付けたものです。



花宵ガラス工房ホームページ



花宵ガラス工房

すどう たまみ  
須藤 珠美さん

# 演劇



演劇を楽しむ会 れんげ草

ただ みき  
多田 美紀さん



演劇を楽しもうドラマクリエイトYoutube  
※「演劇を楽しむ会れんげ草」の公演の様子を公開しています。



市演劇プロジェクトで出会ったメンバーで「演劇を楽しむ会れんげ草」を結成し、年2回の公演を実施。照明や音響も自分たちで交代しながら担っています。

観客が楽しむだけではなく、メンバー1人1人が輝き、生き生きした姿を見せられる舞台にしたいと考えて、私自身が脚本を書き、演出をしています。作品は出演者の年代や人数など条件に合わせたオリジナル。若い世代にもぜひ参加していただきたいです！

# 伝統文化

吉川八坂祭りにおいて、10代から50代の女性の担ぎ手から成る「栄娘連」として、神輿を担いでいます。高校生の頃から、男性と一緒に「神輿の競演」でも担ぎ、神輿を差し投げています。

伝統を繋いでいく為に担ぎ手を募集しています。神輿に興味がある方がいましたら、ぜひお問合せください。

吉川八坂祭青年会  
Youtube



吉川八坂祭青年会  
Instagram



栄娘連

なかもと みやび  
中元 雅さん

# 華道・合唱



吉川市文化連盟

ひろせ まさこ  
廣瀬 正子さん



華道は池坊。現在は自身で教室を月1回開催し、自分たちで楽しく過ごすための“おたのしみ”として活動をしています。

また、合唱団ラ・メールに所属し、30年以上合唱をしています。市民文化祭などで発表する際に自分たちで揃えた青いドレスは、とても評判も良く、気に入っています。

## 第2部

# 「女性と文化芸術」 座談会

「女性と文化芸術“わたしらしさ”フォーラム」内  
開催日：令和8年2月15日  
会場：吉川市民交流センターおあしす

イベントの第1部では、関西地方で活躍する上方落語家の露の眞さんをお呼びし、落語やどじょうすくい踊りを披露いただくとともに、性別に関わらずに「自分らしく生きる」ことについて講演いただきました。

続く第2部では、露の眞さんに加えて、市内で文化芸術の分野で活躍されている女性5名に登壇いただき、吉川市男女共同参画審議会の浅野富美枝会長のファシリテートのもと、それぞれの活動ややりがい、自分にとっての活動の意味などについて語っていただきました。



**市長** 現在、市では性別や年齢、障害の有無、国籍に関わらず、吉川に住んでいる全ての方が一人ひとり自分らしく、幸せでいられるような政策を進めています。今日は文化芸術を介して、どうやったら自分らしく生きていけるのか、皆さんの活動の中でどのように自分らしさを表現できているのかを伺いたいと思っています。まずは、浅野先生、今の日本社会や吉川の状況について、男女共同参画の視点でお話ください。



**浅野** 吉川市男女共同参画審議会会長の浅野富美枝です。私が吉川に来た35年前と比べると、様々な分野で活躍する女性が増えてきましたが、世界的に見ると、ジェンダーギャップ指数も118位で日本はまだ遅れています。徐々に進んではいるけれども、進み方がとても弱い。

昨年実施した市の意識調査の結果では、男女の平等感は随分進んできましたが、誰一人残すことのない吉川にするためには、まだまだ努力が必要と思っています。

### みなさんの活動内容や活動を始めたきっかけは？

**市長** 簡単に自己紹介をお願いします。

**廣瀬** 吉川市文化連盟副会長、廣瀬正子です。私たちは書道、絵画、茶道、華道、和太鼓、合唱、吹奏楽などの様々な文化的分野において、市内で公民館活動をしている団体から成り立っています。文化的なサークル活動を盛り上げていく団体で、創立30年を超えます。私が文化連盟に加入したのは、華



道協会に入ったことがきっかけです。

活動の一つが市役所と警察署のロビーに御花を生けること。合唱連盟にも参加しており、市民文化祭などで発表しています。歌もすごく楽しいです！腹筋や歌詞を覚えるために脳も使います。皆さんもぜひいかがでしょうか。

**市長** 廣瀬さんは広報紙の読み聞かせボランティアもしてくださり、本当に様々なご活躍をされています。

**須藤** 市内で「花宵ガラス工房」を開いている須藤珠美です。ガラス作家として食器や花器などを作ったり、ガラス体験教室も開いています。きっかけはテレビで見た吹きガラスのシーンです。ガラスがオレンジ色に光っているシーンを見た時に、なぜか「これだ！」と感じました。そこから吹きガラス教室に通い、学び始めました。現在は百貨店をメインに個展をしています。



独立して自分の工房を持つために、関東の様々な場所を1年ほど探し、現在の物件を吉川で見つけ、一目で気に入りました。炉も全部自分で作りました。

**市長** 須藤先生の工房では、吹きガラス体験もできます。皆さんもぜひ行かれてください。

続いての多田さんについて、市は「演劇プロジェクト」に取り組んでおり、子どもから高齢の方まで、外国籍や障害がある方もみんなが舞台上に上がり、オリジナルの台本で年に1回公演しています。多田さんはこの第1回目に参加され、プロの俳優、脚本・演出家として、周囲をサポートしてくれました。

**多田** 「演劇を楽しむ会れんげ草」で指導している多田美紀です。会の主なメンバーは、市の演劇プロジェクト第1回から第3回まで一緒に公演をしてきた方々で、もう6年目に入ります。



私自身が作品を書いています。テーマは日常の中でのちょっとしたことや気づき、夫婦間の擦れ違いなど。今度の6月の公演では、男女間での育児や介護の負担や関わり方、そのすれ違いについて取り上げています。私自身は高校時代から演劇をずっとやっていて、「自分らしくなれるもの」が演劇です。市演劇プロジェクトへ最初に参加した時は、東京都内の演劇学科の教員で、吉川から都内へ毎日通い、吉川には「帰ってくるだけ」の生活を長くしていました。たまたま広報紙で演劇プロジェクトを見た時に、「演劇を通じてここに住んでる人たちと出会うことができる！」ととても嬉しく、参加を決めました。途中の子育て期間は演劇から離れた時もありましたが、自分を表現する場がなかったことがとても辛かったです。人の前で表現をしたり、自分の考えを作品として表現できる手段が私にとっては演劇であり、一番私らしくいられるものなので、今も続けています。

**中元** 栄町3区栄娘連で会長をしています、中元雅です。栄娘連は女性の担ぎ手から成り、吉川八坂祭りで男性に混ざって神輿を担ぐだけではなく、女性だけで神輿を担いでいます。



もともとお祭りが好きです。きっかけは、母が神輿を担いでいたこと。祭りを楽しむ母の姿を見て育つうちに、自分もやってみたいなと思い、担ぎ始めました。私自身は浅草三社祭や築地場外での様々な祭りに参加しています。

**Kaco** 「ワークショップ楽えん」代表のKacoです。いつもはエレクトーンを演奏しています。私たちの団体には、自分をアーティストだと思っている方、アーティストとしての誇りを持って活動をしている方が参加しています。

音楽仲間たちが全国や世界でも活動しているのに、地元・吉川では演奏活動をしていない…その理由を聞くと「吉川では

演奏・活動する場がない」「演奏をわかってくれる人がいない」とのこと。おあしすでも演奏できることを伝え、仲間たちと「アーティストフェス」を開催しました。これはアーティスト自身で準備、企画、応接、片付けをし、参加者を喜ばせて楽しませるイベントです。無償ですが、たくさんのアーティストが参加してくれます。吉川にはこんなに素晴らしいアーティストがたくさんいることをもっと知ってほしいと思い、今までに4回開催しています。

**市長** 露の眞さんは、どのように落語の道を選ばれたのですか。どじょうすくい踊りを学んだきっかけも教えてください。

**露の眞** 20歳の時に初めて落語を見て、本当に感動しました。一人だけで演じ、性別も超え、年齢も関係ない。いろんなものになることができる、無限大のすごい芸やなあと一目惚れし、この世界に飛び込みました。

どじょうすくい踊りは師範の方に勧められたことがきっかけです。やってみたらとても楽しい。言葉を発さずに体と表情だけで感情を伝える。落語とも異なり、すごい芸やなと感動し、のめりこみました。



## 自分にとっての活動とは？自分はどんな人？

**市長** 皆さんにとって、現在の活動はどんなものなのか、客観的に見て自分はどのような人間と思うかをお聞かせください。

**廣瀬** 私にとって活動は「生きがい」です。それから、私のボランティア活動で喜んでくれる人がいる。その積み重ねで自分も元気になれるし、もっとやりたいという気持ちにもなれます。

警察署での生け花ボランティアについても、ささいで小さいことだけれども、警察の方々の役に立っていることが分かり、嬉しく思っています。

**須藤** ガラスを始める前は、絵やイラストを描いて一日中家の中で過ごし、他との交流は何もありませんでしたが、ガラス工芸を始めたことで外に出るようになりました。アメリカにワークショップで1ヶ月ほど滞在したり、ガラスのメッカであるイタリア・ムラーノ島にも行きました。海外の作家とも交流し、世界がとても広がった感じがします。

私は話すのが苦手で、手を動かしている方がナチュラルに感じます。特に「女性だから」とは考えたことはありませんが、型にはまることがあまり好きではない、「自由な人間」と思っています。

**多田** 私にとって演劇は、「自分らしくある自分を表現するためのもの」です。また、演劇を通じて人と繋がっていくことができる、かけがえのない大切なものと思っています。演劇は私一人ではできません。仲間がいて初めて舞台ができるし、観客がいて初めて成立する。私は突き進みがちですが、実際はいろんな人に生かされていて、演劇をやっていたからこそ出会うことができていると思っています。



吉川で公演を重ねていくにつれて、観客が徐々に増え、前回公演は用意した100席全てが埋まりました。少しずつ活動が根付いていると感じます。

自分自身は実はとても根暗で思い悩みがちですが、心に引っかけたことや壁にぶつかったことについて、演劇を通じて表現できていると思います。

**浅野** 皆さんの話を聞き、文化芸術をとて身近に感じました。非常に多様な分野で活躍されていますが、それぞれの方が「文化芸術」の最先端で、新しいものを作りつつある方達であることを感じました。

**中元** 祭りに参加することは、自分にとっては**自分の元気や気持ちを充電する場所**と思っています。朝も早く時間もかかる。重い神輿を担ぐので、体力的にも疲れる時もあります。それでも、性別や世代を超えて皆で神輿を担いだり、皆で交流して、とても楽しい時間を過ごしています。気持ちが満たされ、充電できる場所です。

自身は人前で話すことや自分の意見を言うことが苦手で、一歩引いている時が多かったのですが、活動を通じて、自分の意見を意外ときちんと持っていたり、負けず嫌いなどところがあると最近気づきました。

**Kaco** 様々なアーティストとの活動を通して、人とのご縁がさらに繋がっています。それがとても幸せです。元々はセンターに立ったり、人を引っ張っていくタイプではありませんが、実際に活動して、**頑張っている人たちにきっかけを作り、応援をすることが好きなのだ**と気づきました。



**露の眞** 先ほどの多田さんの話の通り、我々<sup>はなしが</sup>お客様ありき」で成り立っています。観客の前で自分のことを話したり、落語をして「眞さんらしい芸やな」と声をかけていただけると、「自分らしくして良いのだ」と感じます。自分の**肯定感を高めてくれる場所**が、私にとっては落語だと思っています。

私自身は喋ることが昔から苦手で、自分の容姿やクエスチョニングの性別についても、長い間弱点だと思っていました。最近は自身をさらけ出せるようになり、自分の弱点やコンプレックスが一番の武器になったと感じます。

**浅野** 「自分らしく、自分を表現する」「自己表現」という点で、皆さん共通していましたね。そしてその場に皆さんの自己表現を受け取る人がいて、受け手の受け取り方によって表現者の表現も心も変わる。**表現する人とそれを受けた人が同じ場を共有することで人と人がつながる。素敵だ**と思いました。

## 今後の活動について



**市長** 今回のテーマである「自分らしさ」をふまえて、今後の活動の展望をお話してください。

**廣瀬** 文化連盟では、コロナ禍を機に活動を自粛したり、現在もそのまま活動を止めてしまう団体が多く、新規加入者や

団体を増やすことが、最も大事な課題です。新たな方々にぜひ加入していただきたい。そのためにも文化連盟に加入したら得られるメリットを作ることを検討いただきたいです。

私は高齢者ですが、今のところとても幸せです。**私みたいな方が増えてくれると良い**と思います。

**市長** すごい！「私みたいな人が増えたらいい」ととても素敵なお話です。

**須藤** 私はこれからも個展を続けていきます。吹きガラスはまだ知名度もなく、作家人口も少ないです。手に取ったり、目に触れる機会もとても少ないので、**もっと多くの皆さんに知っていただきたい**です。

**多田** 私は、まずは会の活動を継続していきます。身近に演劇があり、誰でも楽しめる関係を広げて、観客としてだけではなく、実際に参加してくれる方を増やしたい。現在はシニア世代ばかりですが、**若い世代にもぜひ会に入って来て欲しい**ですね。

演劇に限らず、文化や芸術を“すごく難しいもの”と考える方や敷居が高いと感じる方が多いです。実際は気楽に参加できるものなので、皆さんにも楽しんで欲しいです。

**中元** 一番の大きな目標は、いちよう通りでの「**神輿の競演**」で他の町会の女性の担ぎ手と力を合わせて、**女性だけで神輿を担ぐ**ことです。

現在のメンバーは16歳から50代で、小さい子どもも交えながら祭りを楽しんでいます。子育てなどで大変なことがあっても、この会に来たら皆と一緒に話したり、子どもも遊ぶことができる環境です。祭りに興味がある方や人と繋がりを持ちたい方にも、気軽に仲間として参加してほしいです。

**Kaco** 今後の目標は、新たなアーティストさんにアプローチをし、またフェスを開催することです。市の施設だけではなく街の様々なところで、演奏・展示もしたいです。

私個人でも歌声サロンを開催し、参加者が音楽や歌を通して元気になり、健康寿命を伸ばすような企画をしています。シニア世代だけでなく、40代・50代の方たちにも、**音楽を通して自分を解放できる場所をつくる活動をしていきたい**です。

**露の眞** 様々な場所で落語やどじょうすくい踊りを披露できるように、コツコツ頑張ります。若者世代には10秒に1回は笑える、タイムパフォーマンスの良さが求められていますが、ゆっくり腰を据えて楽しむ、**落語の優しい風や心地良さを今後も伝えていきたい**ですし、若い世代に少しでも触れてほしいと思っています。



**浅野** 文化芸術には**生活の質を向上させ、潤いを与える力**があります。私たちの吉川市が地域と生活に根ざした文化芸術を介して、より一層、自分らしく生きる、人とつながることができる街になっていくことを期待します。

**市長** 文化芸術活動をされている方たちは本当に自己肯定感も高く、エネルギーに満ち溢れている。今日登壇してくださった皆さんも同じで、さらに他者にも優しく、皆を上手くまとめていく力も持ってらっしゃると感じました。皆さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。